

令和 6 年度学校評価結果

本年度の 重点目標		○教育活動を効果的かつ効率的に展開する。 ○生徒の心のケアを大切にする。 ○効果的な情報発信。			
分掌		重点目標	具体的方策	評価結果と課題	最終 評価
1	総務	広報活動の充実	「学校案内」「蔵高News」などの広報誌を充実させ、本校の魅力をアピールする。	「学校案内」、「蔵高NEWS」などを通じて、学校行事、部活動、進路実績、ボランティア活動など、学校内外での生徒の頑張っている姿、実績を、近隣の中学校等に発信することができた。	A
		さまざまなPTA活動のサポートをする。	・PTA役員・委員と教職員の連携を密にしていく。	・今年度は、初めての試みとして、PTA役員・委員の方々が、体育祭において、ジュースを販売してくださった。それに向けて、PTA役員・委員の方々と職員の意見のすり合わせや打ち合わせを丁寧に行うことができた。 ・PTA役員、委員の方々に御来校いただく日が多く、過負担になっているのではないかという懸念がある。今後、PTA行事の精選が必要であると思われる。	B
	進路指導	生徒と教員に対しての積極的な情報発信	■進路だよりや掲示物、教室や廊下への設置物、総合的な探究の時間の充実、説明会や講演会の実施により、生徒の進路選択の参考になる情報を積極的に発信する。 ■教員が安心して進路指導できるように、様々な統計データや役立つ資料などの情報を発信する。	■進路室だよりの発行、掲示物による情報発信がうまくいった。特に、進路室の整備と利用促進により、進路室の利用が大幅に増えた。講演会の事前指導については、例年通りにはできなかったが、改善の余地がある。 ■必要なデータを整え、その使い方などを教員へ周知するなど、教員向けの情報発信はよくできた。	B
		システム・環境の整備	■模試、講座、総合的な探究の時間、実力テスト、推薦入試指導について、ここ数年のシステム変更で、改善された部分と、うまくいっていない部分があるので、分かりやすく、合理的になるようにシステムと環境を整える。	■3年の受験指導に関する業務やシステムを整理して、3年生の教員の業務を激減させた。 ■模試、講座、実力テスト、推薦入試指導について、システムを整理できた。	A
2	教務	新しい観点別評価を改善する	■より適切な成績評価が行えるような方法の研究と情報提供をする。 ■生徒の学力向上と教員の業務増加防止の両方の視点から考えていく。 ■簡単で、かつ、ミスが起きにくい成績処理方法を研究する。	2学期期末時に成績処理に関してミスが2件あった。他校との情報交換で来年度試してみたい方法が提示されたが、その方法で行っている学校でもミスがあったとの報告があるので、スクールエンジンのシステム上、教務部での点検でミスを発見することは限界に近い。	B
		総合的な探究の時間の内容の充実	■社会の一員であることを自覚し、それに向けて成長していく実感が持てる内容を検討する。 ■効果的な実施時期や教科とのつながりを研究し、時間数の調整をする。 ■協働的な活動や講師を招いた講演会を実施するなど、外部の機関の活用を研究する。	今年度、内容の検討を重点項目に掲げたが、議論は難航し、来年度へ持ち越すこととなった。他校の様子や様々な業者の商品を調べるほど、生徒にとって効果的で、かつ教員にとって負担の少ない方法が難しいかがわかる。来年度はプロジェクトチームを作って内容の検討をしたい。	C
	図書	○蔵書を整理し、心地よい空間・居場所であるように環境を整える。 また授業や創蔵の時間での活用や生徒の自主的な学習活動や読書活動をすすめる。	・書架を整理し、不要な本は基準をもとに除籍する。生徒や教員のリクエストに応えながら 選書基準をもとに新たに図書を購入し、提供をする。 ・明るく、心地のよい空間・居場所となるように配慮する。 ・図書館の機能を十分発揮できるように、他分掌とも連携をとりながら利用時間などを調整する。	不要な本や古い書籍の更新を進め書架のスペースを確保し、生徒への寄贈・推薦本は受け入れや管理についての取り決めを整えていきたい。寛げる居場所としての図書館スペース作りの一環としてコーナー作品を制作するコーナーやボードゲームなどを設置した。学習や本の貸し出し以外でも立ち寄る生徒の姿が見られるようになった。机や椅子の劣化、空調機器の不調など現在簡易的な補修や使用制限などで回している。順に整えていく必要がある。	A
		○生徒の文化的な活動の場として図書委員や生徒の主体的な活動をサポートする。	・図書館で生徒の作品を展示・発表する機会を増やす。 ・委員には行事での役割分担を具体的に示し、活動を促す。	・年に2回の図書館行事は委員会の生徒が役割を分担して進めることができた。	A
		○委員会活動や図書館行事などを生徒・保護者に発信し、図書館の利用や行事への参加を促す。	・生徒向けに『図書館だより』や『図書館広場』を定期的に発行する。 ・委員からクラスへの連絡、ポスター、SNSなどで図書館行事への参加を促す。	・行事への参加者は徐々に増えつつあるが、日常的な利用者は少ない。今後も図書館だよりや図書館広場など定期的に発行し、図書館の利用を促していきたい。	B
		特別活動	学校行事や生徒会活動において、生徒が主体的にかつ協力して活動に取り組む姿勢を養う。	・生徒会や委員会の活動を促し、生徒が自主的、かつ協力的に取り組むことができるような環境を整える。	・各委員会の役割は明確にでき、各委員会の生徒が自主的かつ意欲的に行動できた。
3	保健	学校内外への情報発信	・HP、生徒会だより、校内掲示板の活用及び整備。	生徒会だよりなど定期的に生徒会の活動等がわかるものを発行できなかった。	B
		生徒情報の共有と対話への活用	・全職員が諸問題に対し、守秘義務を守り協力して対応できるよう連携を図る。 ・スクールカウンセラーの活用。また、SCの助言を受け支援部会等でのケース会議を開き、対応や対策を実践し、生徒相談の充実を図る。	生徒の状態、状況を職員室白板を使用することで職員の可視化に繋がった。欠席や所在不明の生徒に関しても担任を中心に家庭と連絡を取り、早期対応を行った。今年度より生徒支援部会を発足し、より良い支援の一助とした。	A
	生徒指導	ゴミの減量	・ゴミの持ち帰り、分別の徹底を図り、ゴミの減量に努める。 ・ペーパーレス化を進める。 ・紙のリサイクルを推進する。	教室のごみ分別は例年通り。原則ごみを持ち帰ることができている。この他、他所から出るごみについて来年度分別、さらなる減量を進めたい。生徒の清掃活動についてより主体的に取り組めるよう働きかけを行っていきたい。	B
		交通安全の励行 交通事故の減少	・交通事故件数の減少 ・登校時、下校時の交通指導と身だしなみ指導など注意喚起を促す。 ・集会時やSTを利用して、交通安全について呼びかけをする。	交通事故数自体は減少していないが、大きな事故は起こっていない。道路交通法が改定されたことも関係していると考えられる。しかし、現状ではながら運転等は見られるので継続的に注意していきたい。	B
	学校全体	情報モラルの向上	・情報モラルについて講演会を実施する。 ・集会時やLT・STを利用してモラルの向上を図る。 ・アンケートを通して、スマートフォンなどの情報機器の利用状況を把握し、適正な利用ができるように理解させる。	今年度ネット上のトラブルはおこらなかった。今後も学期末等に声をかけながら、注意喚起していきたい。	A
		基本的な生活習慣の確立	・遅刻・早退・欠席数の減少に努める。 ・授業の始まり等の時間を守らせる。 ・高校生としてふさわしい頭髪や服装規定を遵守した容姿にさせる。	例年に比べて怠業が頻発した。学校生活がうまくいかないなどの不満を抱えた生徒に対するアプローチを相談部と連携して行く必要がある。	B
		教育活動を効果的かつ効率的に展開する	・スクール・ポリシーに基づくカリキュラムマネジメントを推進。 ・定時退校日の設定とその推奨、施設時間の徹底。 ・勤務時間外における電話対応の徹底。	・勤務時間外従事時間実績を昨年度と比較すると、12月までの月平均人数は、45時間超:16.2人→15.9人、80時間超:2.4人→2.2人とほぼ横ばい傾向であった。さらなる業務の効率化を目指すしたい。	B
学校関係者評価を実施する主な評価項目	生徒の心のケアを大切にする	・学年主任会、相談委員会で情報を共有し、管理職や外部機関との連携を図る。 ・SCやSSWの活用について、職員研修を実施する。	・不測の事態にも、校内職員とSC等が迅速かつ適切に連携して対応することができた。 ・現在の手厚い支援体制を継続していきたい。	A	
	効果的な情報発信	・対外的な認知度やイメージの向上を図る。 ・中学生向けの学校開放日を設定する。	・学校説明会・学校開放日における学校紹介、PTA刊行物、本校Webサイト、Instagramにより、本校の魅力を積極的に情報発信することができた。 ・生徒会活動との連携を活発にしていきたい。	A	